

平成 30 年度がん教育総合支援事業  
がん教育推進校実践報告

北海道小樽潮陵高等学校

学級数：18 学級 生徒数：713 人

【実践テーマ〈キーワード〉】

がん患者への理解を深めるとともに、共生の態度を育成する。

〈キーワード〉 医療系進学希望者対象の講話

1 はじめに

本校においては、これまで、科目「保健」において、小樽市のがんに対する取組やがん患者の生活の質の維持・向上について理解を深める取組を行ってきた。

本事業を活用することにより、検診の受診率の向上など社会的な対策について主体的に考え、実践していこうとする態度を育成することや、がんと向き合う人の声を直接聞かせることにより、自己の在り方や生き方について改めて考え、がん患者やその家族と共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ることができると考え、本事業を推進することとした。



(3) がん経験者による講話（第 1・2 学年）

北海道がんセンターピアサポーターの滝澤氏を講師とし、「正しいがんの知識を」をテーマに、がんの仕組みや進行、がん検診の受診率、がん患者としての生活等についての講話を実施した。



2 実践

(1) 保健体育科での教員研修

教科会議で本校のがん教育の効果的な方法に向け、生徒の深い理解につなげるために、講演会の内容と保健の授業内容を関連付けることや実施時期を近づけることなどについて方向性や実施計画を確認した。

また、道教委主催のがん教育研修会の内容について、教科内で研修を行った。



(2) 地域の現状を踏まえた保健の授業（1 学年）

「第 2 次小樽市健康増進計画『第 2 次健康おたる 21』」を元に、地域のがんに対する課題と取組について学習するとともに、グループワークにより、がん患者の生活の質の維持・向上について理解を深めた。

(4) 講話との関連を図った指導内容の重点化

生徒の理解をより効果的に深めるために、講師との事前打合せにより講話の内容を把握したことにより、講話前後の保健の授業内容の重点化を図った。

事前学習では、早期発見の重要性や緩和ケア、事後学習では、個人及び社会的な視点での方策の検討について扱うことにより、講話の内容を今後の自他の健康についての視点から理解を深めることができた。

(5) 医療希望者を対象としたがん専門医による講話

本校は、道教委の「地域医療を支える人づくりプロジェクト」の医進類型指定校であり、以前から医療系進学希望者を対象に、医療系大学病院の教授等による講演等を実施し、生徒の意欲の喚起を図ってきた。

本年度は、がん専門医である札幌医科大学医学部教授の鈴木氏による講話を実施し、がんの種類や原因、検査方法及び治療方法について理解を深めることができた。

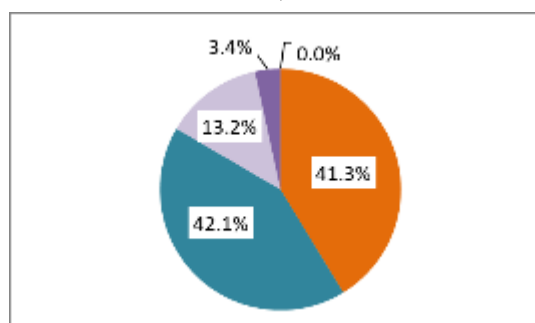


○ がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。

(実施前)



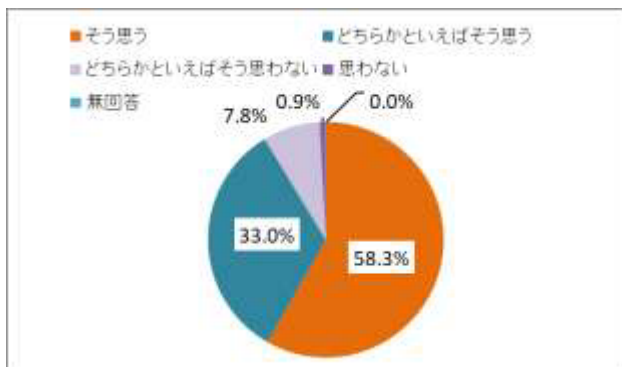
(実施後)



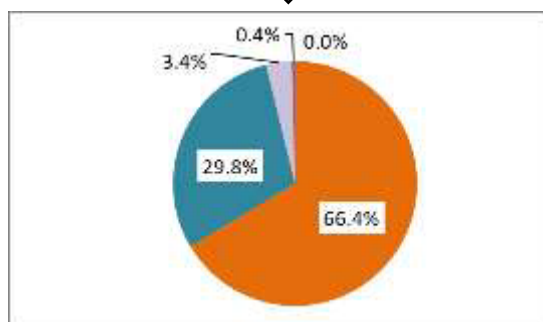
### 3 生徒アンケートの結果

○ がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。

(実施前)



(実施後)



### 4 実践の成果と課題

○ 成果 ○

がん経験者の体験を直接聞く機会を設定したことにより、がん患者にとって医療職との信頼関係や仲間の存在が重要であることに気づき、がん患者やその家族への理解が深まった。

がん専門医による、がんの検査方法・治療方法などについての講話を通して、実際の医療現場の仕事のイメージを掴むことができ、医療職を目指す生徒のがんに対する課題解決に向けた意欲が向上した。

● 課題 ●

がんと健康について、家族と話し合うことに対して否定的な回答をした生徒が一定数いることから、保健だよりの発行など、自他の健康と命の大切さについて学びを深める活動を継続する必要がある。

保健の授業だけでは指導時間の確保が困難であることから、保健の指導内容を精選するとともに、LHRや行事を活用して学校全体で推進する必要がある。